

令和 6 年度第 3 回相談支援従事者研修検討会 検討チーム報告

チーム名（ 内容整理チーム ）

チームメンバー名（ 美濃口・稲垣・高江洲・蛭川・古橋 ）

報告内容

1 第 2 回検討会以降の取り組み内容・検討事項

○私たちが目指す相談支援専門員の姿 Ver.9

【内容】行政職員で「福祉に関わったことがない人」に、一目で相談支援専門員を理解できる資料を加え ver9 として作成する。

【成果】第 2 回の検討会でもらった案をもとに修正案を作成。メンバーでの共有はしたが検討ができていないため、第 3 回にて検討を加える。

○補助教材

【内容】講義の動画配信を行った。

【対象者】ファシリテーター

【成果】動画編集を行いキャプチャーして YouTube に限定公開した。

○相談支援従事者研修の新事例（古橋、稲垣、蛭川より説明）

【成果】『鈴木陽介さん』の事例について以下の変更を行う（別紙参照）。

モニタリングについて

- ・初任者研修…20 歳の計画案＋3 か月後モニタリング＋6 ヶ月後モニタリング
- ・現任者研修…23 歳の計画案＋6 ヶ月後モニタリング

～変更点～

- ・サービス等利用計画
- ・6 ヶ月後のモニタリング報告書
- ・週間計画案

2 課題と第 4 回までの取り組み予定

○私たちが目指す相談支援専門員の姿 Ver.9

本日いただいた意見をもとにブラッシュアップ。

○補助教材

視聴回数などを確認して効果の程を検証。次年度の配信について検討する。

○相談支援従事者研修の新事例

本日承認が得られれば、現任、初任チームとすり合わせて資料の修正を行ってもらう。

令和6年度第3回相談支援従事者研修検討会 検討チーム報告

チーム名（ 人材育成チーム ）

チームメンバー名（ 安井・神作・芝・藤田・横田 ）

報告内容

1 第2回検討会以降の取り組み内容・検討事項

【市区町村実習説明会実施について】

9月19日(木)午後に自治体及び拠点機関向けの実習説明会を実施。

回数を重ねて実施してきたこともあり、質問等はあまり出なかったが、今後も継続して行うことで、担当者が変わっても実習の位置づけや地域として実習を行う目的などを伝えていく必要性を感じた。

また、地域によっては実習のやり方が異なるので、実習説明会を受けてそれぞれの自治体ごとに実習に向けた話し合いの場が持たれ、将来的には実習をきっかけに地域で人づくりをどのように考えていくのかまで発展していくと良い。

今年度は専門コース別研修で「スーパービジョンの基本」をテーマにしたので、実習説明会から専門コース別につなげる流れを作ることができた。

説明会終了後に実習説明会の動画を限定公開して実習対応の参考に活用できるようにした。

2 課題と第4回までの取り組み予定

自治体及び拠点機関向けに事後アンケート予定。

次年度以降の説明会の内容検討の参考にする。

令和7年度東京都相談支援従事者現任研修 事前課題1「実践の振り返り」シート

研修2日目に使用
演習ノート14頁参照

氏名
金田 正太郎

事業所名
こだま相談支援センター

受講決定番号
999

「基本情報」 **Aさん（20）歳代（男）・女 R区在住**

見た目・性格

身長 160 cm、体重 60 kg / 髪型はツブブロックで短髪、清潔感あり / ファッションはアウトドア系 / 穏やかで人当たりがいい / 頑固、考えは変えない / 好きなことにはこだわるが、それ以外はマイペース / 家族への遠慮

できること（ADL・IADL など）

全介助 / 電動車いす操作OK、振動で緊張 / スマホ、タブレット操作OK / 会話OK / 込み入った内容を理解したり判断することは難しい。（制度の理解、金銭管理など）

好きなこと（興味・関心など）

ポッチャ / 仕事（宛名貼り・封入） / スマホ・タブレット（YouTube・ゲーム・アニメ）

苦手なこと・嫌いなこと

強く自己主張すること / 優先順位を決めること / 新しい環境や習慣に慣れていくこと

障害・疾病（障害者手帳など）

脳性マヒ、てんかん（薬で安定） / 障害支援区分6 / 身体障害者手帳1種1級 / 愛の手帳3度

住まい・環境・経済状況

持家 / 収入：18万円程度 [各種手当] 障害基礎年金1級、心身障害者福祉手当 重度心身障害者手当、特別障害者手当

「実践情報」

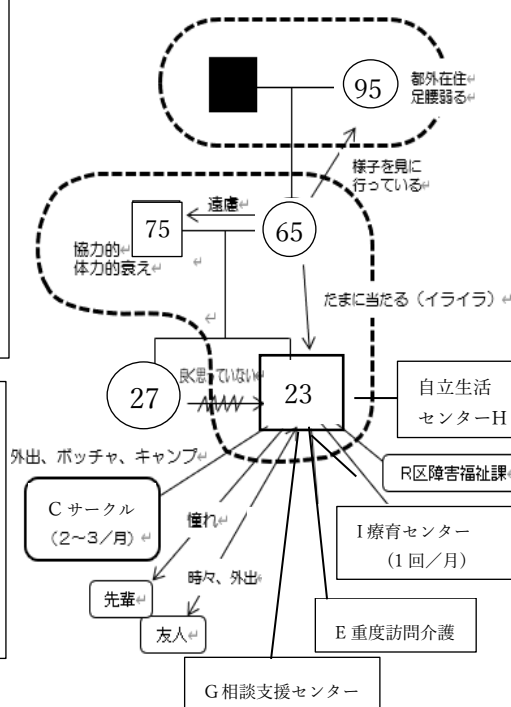
支援課題（ニーズ） ※サービス等利用計画の「解決すべき課題」より転記

- 自分の障害（特性）を理解して、ヘルパーさんにやってほしいことを伝えられるようにしたい。
- ひとり暮らしが実現するために、何が必要なのかもっと知りたい。
- アパートを見つけてひとり暮らしがしたい。
- ちゃんとした仕事もして、お金を貯めたい。そのお金でポッチャの用具を買ってもっと強い選手になりたいし、一人前の大人になりたい。

本人の思い

- 家族に迷惑をかけているという思いがある
- もう大人なので、就労B型で働いて人の役に立つ。ちゃんとした仕事をして一人前の大人になりたい。
- 地元で先輩のように一人暮らし、入所施設やGHは入りたくない。
- 仕事をしてポッチャの用具（ボール、ランプ）を買いたい。そして、ポッチャの選手になりたい。
- F相談支援事業所の相談支援専門員はお母さんとばかり話をして、僕の話はあんまり聞いてくれなかった。

ジェノグラム・エコマップ



生活歴

- 0歳 未熟児/低酸素脳症で出生/E療育に母子通所
- 3歳 てんかん発症
- 5歳 入院（股関節手術で半年間）
- 6歳 小学校入学（特別支援学級）
- 10歳 Cサークル参加
- 12歳 中学校入学（特支学級）
- 15歳 てんかん安定
- 18歳 D特別支援学校入学
- 19歳 卒業後、宿泊型自立訓練や生活介護を利用
- 20歳 実家へ戻り、別の生活介護事業やE重度訪問介護事業を利用
- 23歳 F相談支援事業所閉所に伴って、G相談支援センターへ変更
祖母が足腰弱り、母の介護が増えつつある

家族の思い

父）できる限りのことはしたいが体力が…
母）実母の介護もあり夫に頼っていたが夫の体力的に心配

障害福祉サービス

・重訪 4回/W（カラオケ・映画・買物）

週間予定

	月	火	水	木	金	土	日
6時		重		重		重	重
12時		重		重		重	重
18時							

週間以外の予定

月に1回母と受診

医療状況（通院歴など）

・I療育、服薬：抗てんかん 薬 朝夕

その他（必要な情報など）

- 木曜日は自立生活センターHを利用。
- 土日はCサークルを利用。

アセスメント（あなたがAさんをどう理解・解釈しているか）

家族や支援者に遠慮をし、「本当の思い」をなかなか伝えられずにいた様子。現在は各種サービスの利用を通して周囲と信頼関係を築きながら少しずつ「本当の思い」を伝えられるようになっていく。重度訪問介護等必要なサービスがあれば一人暮らしは十分可能と考えるが思うような物件や働くが見つからず経過。そのような状況でもAさんは「仕事をしてポッチャの用具を買いたい」「ポッチャの選手になりたい」などのはっきりした目標や一人暮らしの先輩という繋がりを力にして課題に対して取り組まれている。好きなことにはこだわるが、それ以外はマイペースなAさんなので、客観的な見立て（支援者の見立て）も大事にする必要がある。

「相談支援専門員」として、これまで取り組んできたこと

- ・以前利用していた生活介護事業所は「働く」イメージに合わず退所されている。改めて「働く」ことに対してよくお話を伺うようにしている。
- ・一人暮らしへ向けて自立生活センターではコミュニケーションの練習の機会を、重度訪問介護では A さんの意思をヘルパーに伝える実践の機会を調整した。
- ・一人暮らしをしている先輩に自宅を見せてもらうことで、A さんに一人暮らしのイメージ作りの機会を提供している。
- ・モニタリングやサービス担当者会議を丁寧にいき、チームワークを大事にしている。
- ・「ボッチャの用具を買いたい」に対して少しでも高い工賃、そして車いすでも利用できる作業所を探し見学もしたいが利用に至らなかった。

「地域の状況及び地域資源」

【地域（区市町村）の概要】

区市町村名	R 区	面積	約 40 km²	人口	約 40 万人	世帯数	約 21 万世帯
-------	-----	----	----------	----	---------	-----	----------

【障害福祉における区市町村の理念(障害者計画等)】

「障害のある人も、地域で自分らしく暮らせる街をつくる」

【医療や保健情報】

【相談支援の状況】（令和5年 月現在）

手帳所持者			自立支援医療 (精神通院、 更生、育成)	難病等その他の 把握している 障害者の数	相談支援の利用者数		相談支援の (暫定)カバー率
身体障害者	愛の手帳	精神保健福祉			計画相談	計画相談外	
人	人	人	人	人	人	人	%

障害者総合支援法(サービス等利用計画)			児童福祉法(障害児支援利用計画)		
対象者数	作成率	うちセルフプラン率	対象者数	作成率	うちセルフプラン率
人	%	%	人	%	%

【相談支援事業所等の状況】（令和5年 月現在）

	設置運営形態	箇所数	職員数	(人)		(件)	
				兼務職員数	計画相談	計画外	計画外
基幹相談支援センター	☐ 直営 ☐ 委託 ☐ その他 ☐ 未設置						
地域生活支援事業の相談支援	☐ 直営 ☐ 委託 ☐ その他						
指定特定相談支援事業所							
指定障害児相談支援事業所							
指定一般相談支援事業所(地域移行)							
指定一般相談支援事業所(地域定着)							
自立生活援助事業							
児童発達支援センター	☐ 公立 ☐ その他 ☐ 未設置						
地域生活支援拠点等	☐ 面的 ☐ 拠点 ☐ その他 ☐ 未整備						

この部分は主任研修で取り扱う内容です。今回は記入不要ですが、このような内容も把握していくのだというイメージを持ってください。

A さんの相談支援を通して感じる自身の相談支援専門員としての課題

- ・一人暮らしやボッチャなどはっきりとした希望を持つ A さんに対して、どのように実現していくかの目標設定をもっと具体的に立てられるようにする。整理されたニーズや手立てを見直していくことが必要。
- ・住まいや日中活動先の情報収集にあたって、自身の「知識やネットワーク」の不足があるのではないかな。一方で、自分一人で頑張ろうとして、「他支援者との連携」という視点が不足しているのではないかな。
- ・「個別支援の課題と地域の課題が繋がっていること」を忘れていないかな。例えば「R 区の社会資源が不十分かもしれない」という視点。

【地域の特徴】

特に良いところは？

- ・昔ながらの商店街が残っていて、昔からの人の繋がりががある。
- ・事業所数は比較的多い。

【協議会の状況】

☒ 1.設置済み ☐ 2.未設置

形態(組織構成)や実施状況等

- ・平成 20 年 4 月に設置。本会議の下に子ども部会、災害対策部会、相談支援部会がある
- ・相談支援部会は 2 か月に 1 回会合を行っている。

【地域にあったらいいな】

こんな制度や仕組み、社会資源（フォーマル・インフォーマル）があったらいいなと思ったことを 3 つ以上挙げてください。

- ・本人の希望に合ったタイプの就労継続支援 B 型事業所
- ・不動産屋のネットワーク
- ・重度障害の方を受け入れてくれるヘルパー事業所

【基幹相談支援センターの状況】

☒ 1.設置済み ☐ 2.未設置

形態(組織構成)や実施状況等

- ・平成 30 年 4 月に設置。区内法人に委託している。
- ・地域相談支援事業所との連携や地域移行の推進に向けて取り組み始めている。

【地域生活支援拠点等の状況】

- ・面的整備にて設置済み。
- ・緊急入院、強度行動障害研修等に取り組み始めた。

【相談支援のネットワーク】

- ・毎月相談支援ネットワーク会議を実施。区内の事業所から多くの相談員が参加し、学び合いの場となっている。

【障害福祉サービス等の状況】

サービス名	事業所数	サービス名	事業所数
居宅介護	90	自立訓練(機能訓練)	1
重度訪問介護	87	自立訓練(生活訓練)	2
行動援護	2	就労移行支援	7
同行援護	50	就労継続支援 A 型	5
移動支援	60	就労継続支援 B 型	25
生活介護	18	就労定着支援	6
短期入所	3	就労支援センター	1
共同生活援助	73	地域活動支援センター	5
施設入所支援	1	児童発達支援	15
自立訓練(宿泊型)	1	放課後等デイサービス	31

サービス等利用計画案

利用者氏名（児童氏名）	鈴木陽介さん	障害支援区分	区分 6	相談支援事業者名	こだま相談支援センター
保護者氏名		本人との続柄			
障害福祉サービス受給者証番号	0123456789	利用者住所	R区中町 3－4－5	計画作成担当者	金田正太郎
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			
計画案作成日	〇〇年〇月〇日	モニタリング期間（開始年月）	3か月毎月、その後は3か月ごと	利用者同意署名欄	
利用者及びその家族の生活に対する意向（希望する生活）	実家を出て色々とチャレンジして、一人前の大人として自分で自分のことができるようになりたいと思っていたけれど、それがなかなか難しいことだとわかってきました。今は、父の勤めや、先輩への憧れもあって、ひとり暮らしの夢を叶えたいという思いが強くなり、アパートを探したいです。僕が実家を出てひとり暮らしできると家族の負担も減るのではないかと考えています。父も歳を取ってきたし、母も祖母のお世話で祖母宅に行くことが増えるみたいだし、余計にひとり暮らしについて考えるようになりました。近い将来に、ヘルパーに手伝ってもらいながら、ひとり暮らしをして、ちゃんとした仕事もして、お金を貯めたい。そのお金でポツチャの用具を買ってもっと強い選手になりたいし、一人前の大人になりたいです。				
総合的な援助の方針	陽介さんが希望する「ひとり暮らし」「ちゃんとした仕事」「一人前の大人になりたい」が実現できるように支援します。その際、マイペースな陽介さんに対する客観的な見立ても大事にして、必要なサポートと一緒に見極め、取り入れていけるようにします。				
長期目標	ひとり暮らしに慣れ、自分の気持ちや思いを支援者や友人たちに伝えられるようになっている。自身で得た収入で自己実現を果たし、一人前の大人になっている。				
短期目標	ヘルパーさんと過ごすことに慣れている。アパートを見つけ、ひとり暮らしができるようになっている。				

優先順位	解決すべき課題（本人のニーズ）	支援目標	達成時期	福祉サービス等 種類・内容・量（頻度・時間）	課題解決のための 本人の役割	評価 時期	その他留意事項
1	自分の障害（特性）を理解して、ヘルパーさんにやってほしいことを伝えられるようになりたい。	自立生活センターのぞみの寺川さんとひかりヘルパーステーションの西山さんと連携して、陽介さんがヘルパーさんにしっかり意思を伝えられるようにサポートします。	1 年後	自立生活プログラム（1/W 木曜日・5h 自立生活センターのぞみ） 重度訪問介護（234時間/月 ひかりヘルパーステーション） ・日常生活の一連の介護を週3・4回のペースで入ってもらう。 計画相談 こだま相談支援センター モニタリング	自分のやってもらいたいことをヘルパーさんに伝えられるようにしていきます。	随時	自立生活センターで学んだり、アドバイスを受けたことを、日常生活の支援を受けた際に実行してみる。
2	ひとり暮らしが実現するために、何が必要なのかもっと知りたい。	具体的にひとり暮らしの準備が始められるように、いろいろな人から、ひとり暮らしの生活を見たり聞いたりできる機会を作ります。	3 か月後	重度訪問介護（234時間/月 ひかりヘルパーステーション） 計画相談 こだま相談支援センター ひとり暮らしをしている人たちの話を聞いたり、お部屋を見せてもらったり、必要な物を検討する。	聞いてみたいことをヘルパーさんや相談支援の人と一緒に考える。	3 か月後	
3	アパートを見つけてひとり暮らしがしたい。	一緒に不動産屋を周りアパート探しをお手伝いします。	半年後	計画相談 こだま相談支援センター 重度訪問介護（234時間/月）ひかりヘルパーステーション 場合によってはR区役所障害者福祉課	部屋を借りるとき、ここだけは大切にしたいことを考える。	3 か月後	住宅改修についてはR区役所の担当者と連携する。アパートが見つかり次第、時間数を増やす必要がある。
4	ちゃんとした仕事もして、お金を貯めたい。そのお金でポツチャの用具を買ってもっと強い選手になりたいし、一人前の大人になりたい。	自分専用のポツチャの用具を買うため、陽介さんに合う仕事を探していく。「一人前の大人」についてよく話をしながら一緒に実現を目指します。	半年後	計画相談 こだま相談支援センター 個別面談、情報提供など ※ご本人が利用する福祉サービス種別・内容未定	自分のできることを言うようにする。どんな仕事ができるか、相談支援の人と一緒に探してみよう。	3 か月後	・就労継続支援B型・生活介護のどちらかに限定せず、陽介さんを受け入れてくださる事業所を探す。 ・相談支援専門員が「本人を中心にした支援を行う」立場であることを伝えていくこと。

サービス等利用計画案【週間計画表】

利用者氏名（児童氏名）	鈴木陽介さん	障害支援区分	区分 6	相談支援事業者名	こだま相談支援センター
保護者氏名		本人との続柄			
障害福祉サービス受給者証番号	0123456789	利用者住所		計画作成担当者	金田正太郎
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			

計画開始年月日	〇〇年〇月〇日
---------	---------

	月	火	水	木	金	土	日・祝	主な日常生活上の活動
6:00								○月・水・金曜については、母が日常生活の介助をしている。
8:00	起床	起床	起床	起床	起床	起床	起床	○火・木・土・日曜については、朝8時から夜9時まで、重度訪問介護を利用し、日常の介護を母以外の人に支援してもらうことに慣れることを意図している。
10:00		朝食・身支度		朝食・身支度		朝食・身支度	朝食・身支度	
12:00				自立生活プログラム				○木曜日は、自立生活センターのぞみで行われている「自立生活プログラム」を利用している
14:00		重度訪問介護サービス 08:00～21:00 (13h)				重度訪問介護サービス 08:00～21:00 (13h)	重度訪問介護サービス 08:00～21:00 (13h)	○アパート探しは火曜日に行うことが多い
16:00				重度訪問介護サービス 08:00～21:00 (13h)				○サークルの先輩のお宅などへは火曜か土日に伺う。
18:00		入浴		夕食		入浴		○土日はサークルたにがわでのポッチャ活動があればそれにも参加する。
20:00		夕食		入浴		夕食	夕食	
22:00								週単位以外のサービス ○あさま療育センター（小児科・整形外科）1/M
0:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	月・水・金曜日に母と行くことが多かったが、受診日を火曜日にしてもらい、ヘルパーと受診する練習もしてみる。
2:00								
4:00								

サービス提供によって実現する生活の全体像	特別支援学校高等部を卒業後、ADLの向上を意図した福祉サービスの利用があり、その後、自宅から通える事業所（生活介護）を3か月の通所で止めてしまうことがあった。その後、日中活動系の福祉サービスの利用はなく、現在に至っている。ご本人には、「人の役に立ちたい」という強い思いがあり、こだわって日中活動系の事業所を探してきたが、なかなか見つからないままであった。今回、本人の父と、本人の友人（先輩）からの勧めもあり、アパートで自立生活することを優先していききたいと、ご本人から明確に意思表示された。アパートが見つかった場合は、重度訪問介護の支給量を増やす必要があるが、ヘルパーへもご本人から必要なことをお願いできるようになってきたため、引き続き生活の質が向上するように取り組んでいく。また、土日のサークルたにがわのポッチャ活動への参加は母が介助をすることが多かったが、今回のサービス等利用計画の変更で、ヘルパーにお願いすることで、よりポッチャを頑張りたい陽介さんの希望に近づくことができるようになる。本計画を通じて、陽介さんの生活の質の向上とともに、単身生活への足がかりとし、いつか自分で働いたお金で自分専用のポッチャの用具を買って、「ポッチャの選手になりたい」「一人前の大人になりたい」等の希望を実現していくことを意図している。また各サービスの利用から見えてくるマイペースな陽介さんに対する客観的な見立ても大事にして、必要なサポートと一緒に見極めていく。
----------------------	--

モニタリング報告書(継続サービス利用支援・継続障害児支援利用援助)

利用者氏名(児童氏名)	鈴木 陽介	障害支援区分	区分6	相談支援事業者名	こだま相談支援センター
障害福祉サービス受給者証番号	0123456789	利用者負担上限額	0円	計画作成担当者	金田正太郎
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			

計画作成日	〇年〇月〇日	モニタリング実施日	〇年〇月〇日	利用者同意署名欄	
-------	--------	-----------	--------	----------	--

総合的な援助の方針	全体の状況
陽介さんが希望する「ひとり暮らし」「ちゃんとした仕事」「一人前の大人になりたい」が実現できるように支援します。その際、マイペースな陽介さんに対する客観的な見立てでも大事にして、必要なサポートと一緒に見極め、取り入れていけるようにします。	重度訪問介護と自立生活センターの利用や連携を通して、少しずつヘルパーと関係性を築きつつある。また先輩との交流を通して、モチベーションと具体的な住まいへのイメージを高めている。住まいについては引き続き先輩の暮らし方をモデルに一人暮らしの具体的なイメージ作りを続ける。また日中活動については工賃が高めの作業所見学を実施。しかし見学以降へ進捗することはなかった。他区等、地域を広げて作業所を探すことも必要だが、他支援者からの意見を募るためにサービス担当者会議を予定している。

優先順位	支援目標	達成時期	サービス提供状況 (事業者からの聞き取り)	陽介さんの感想・満足度	支援目標の達成度 (ニーズの充足度)	今後の課題・解決方法	計画変更の必要性			その他留意事項
							サービス種類の変更	サービス量の変更	週間計画の変更	
1	自立生活センターのぞみの寺川さんとひかりヘルパーステーションの西山さんと連携して、陽介さんがヘルパーさんにしっかり意思を伝えられるようにサポートします。	〇年 〇月	外出はスムーズになりましたが、時間管理が上手くできないらしく、ヘルパーの声掛けがないと予定の時間に戻って来られないことがよくあります。	楽しいことがあると、帰らないやいけな時間忘れちゃうのを直したいんだ。それを寺川さんと考えたいな。	自分から意思を表現するには時間が必要だが、自分の障害についてヘルパーに伝えるべくILPを継続している。	引き続き、自立生活センターのぞみの寺川さんに相談する。	有・ 無	有・ 無	有・ 無	
2	具体的にひとり暮らしの準備が始められるできるように、いろいろな人から、ひとり暮らしの生活を見たり聞いたりできる機会を作ります。	〇年 〇月	先輩が心配して会ってくれたり、アドバイスしてくれている。そして実際に先輩の自宅を見せてもらうことで一人暮らしのイメージ作りに取り組んでいる。	先輩に会っているいろいろ話せるのでうれしい。先輩の家を見せてもらったがいりう工夫していて勉強になった。	先輩の存在が大きいうで、先輩に会えるのを楽しみにしている。また先輩の生活を見ることで自身の一人暮らしのイメージを広げている。	今後も先輩の協力をもらいながら、陽介さんが望む生活を描けるようにしていく。	有・ 無	有・ 無	有・ 無	自立後も継続的に行う。
3	一緒に不動産屋を周りアパート探しをお手伝いします。	〇年 〇月	陽介さんが一人暮らしの生活、動きのイメージがついていなくていまだにアパートが見つかっていない。グループホームも探してはいるが、空いていても重度身体障害に建物自体が対応しておらず、入れそうなところがない。	早くアパートで暮らしたい。アパートが見つかるまでなら、グループホームでもいいかな。	まだアパートを見つけれない。陽介さんと一緒に探していきたいが限界がある。	自立生活センターのぞみの寺川さんに家探しの協力を相談する。また他支援関係者からも意見を募るためサービス担当者会議も適宜開催。最終的に陽介さんが決定できるようにする。	有・ 無	有・ 無	有・ 無	
4	自分専用のボッチャの用具を買うため、陽介さんに合う仕事を探していく。「一人前の大人」についてよく話をしながら一緒に実現を目指します。	〇年 〇月	工賃が高めの作業所見学を実施。しかし見学以降へ進捗することはなかった。	早く仕事ができるといいな。金田さんという作業所見学しているけど、なかなかピンとこないな。	重度障害のある人を受け入れられる事業所がR区にない。また陽介さんがどんな作業所を利用するかイメージが不足している。	他区等、地域を広げて作業所を探すことも必要。また、サービス担当者会議にて他支援者からの意見を募る。	有・ 無	有・ 無	有・ 無	自立生活プログラムや、住まい探しを優先しているため、日中活動の場を探すには、もう少し時間がかかる可能性が高い。

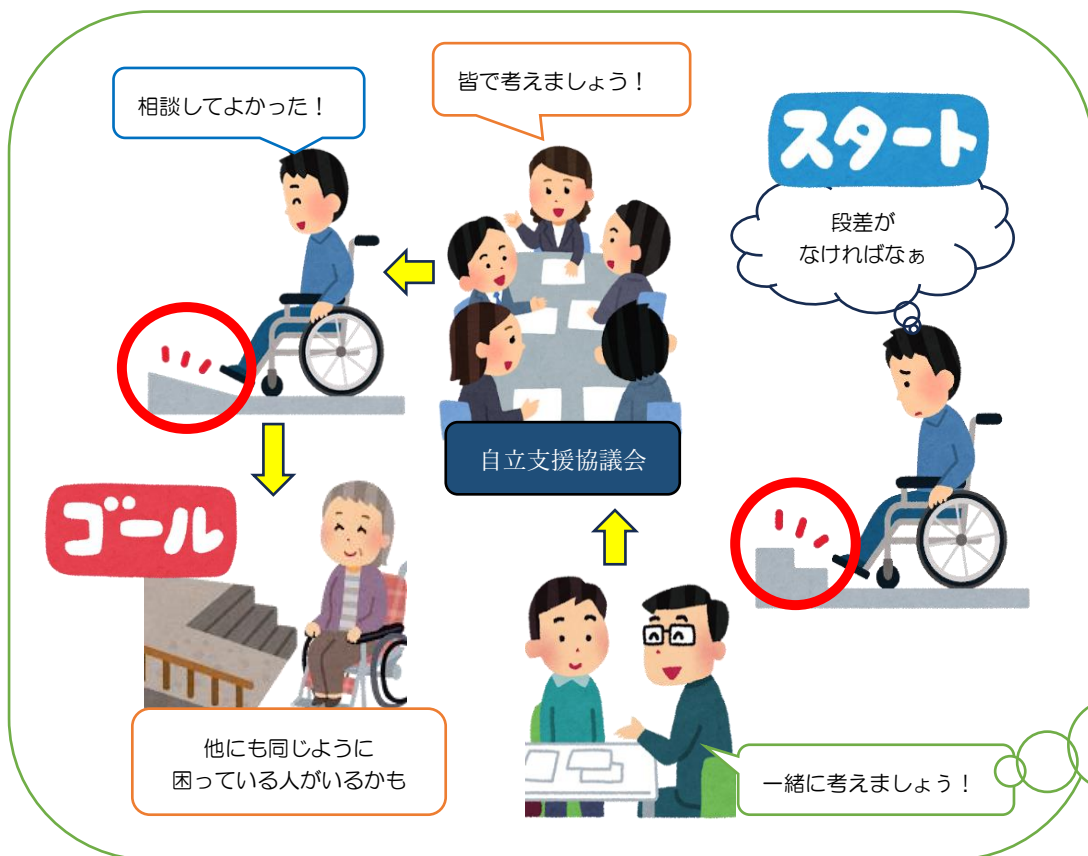


「当たり前」を当たり前



日本における福祉サービスは行政の措置として提供され、障害がある方の自己決定の機会が限られていました。障害者権利条約の批准を経て、国内では障害があっても「自分の住みたい地域で自分らしい暮らし方・生き方」を選択する権利が見直されました。その結果、相談支援専門員は、選択された「暮らし」や「生き方」が実現できるよう伴走する存在として創設されました。

医学(個人)モデルから社会モデルへ



障害がある方が日常生活や社会生活で受ける様々な制限は、「個人」の心身機能の障害のみに起因するのではなく、「社会」における様々な障壁と相對することによって生じます。

相談支援専門員は利用者一人ひとりのニーズは地域のニーズであることを知っています。

各自治体で活躍している相談支援専門員を地域資源としてご活用ください。